

## JSPS Core-to-Core Seminar ~Protein folding and misfolding~ 開催報告

大阪大学 大学院工学研究科 助教 中島吉太郎

[開催日時] 2022年12月6日

[場所] 大阪大学 吹田キャンパス 産学共創 B棟

[開催プログラム] [https://supersaturation.sakura.ne.jp/seminars/sem\\_221206.pdf](https://supersaturation.sakura.ne.jp/seminars/sem_221206.pdf)

[開催概要]

学振拠点形成事業(蛋白質凝集の先端研究ネットワーク)の活動として、ミュンヘン工科大学より Prof. Johannes Buchner を招待し、JSPS Core-to-Core Seminar ~Protein folding and misfolding~を開催しました。日本国内から若手研究者を中心に参加を募り、研究成果を口頭で発表する形でセミナーを進行しました。初めに、世話人の後藤祐児特任研究員(大阪大学)からオープニングトークが行われました。その後、博士前期・後期課程の学生を含む4名の発表者が、15分間の持ち時間で発表を行い、Buchner氏からのコメントを含めて質疑応答は活発に行われました。その後、大阪大学工学研究科の中島吉太郎助教と荻博次教授から研究成果の発表を行い、最後に Buchner氏が1時間の持ち時間でシャペロンと蛋白質恒常性についての最新の研究成果を発表されました。発表後には、時間を超過して質疑応答が続けられ、多くの知見を得ることができました。



ミュンヘン工科大の Prof. Johannes Buchner を囲んでの集合写真。大学院生を中心とした多くの若手が参加しました。

## [若手参加者感想]

### (1) 太田朝貴 (大阪大学・大学院生)

初めての英語での発表でした。日時会話と違い専門的な単語ばかりであり、論理立って話さないといけないため、研究内容を英語で伝えることの難しさを痛感しました。スムーズに進めるために原稿を暗記しておけばよかったと思います。かなり緊張してしまいましたが、反省点が英語の学習意欲の刺激となり、そういう点も含めて非常にいい経験となりました。

### (2) 花田翔 (大阪大学・大学院生)

英語で5分以上も発表を行うのは初めてだったので、頑張って原稿を暗記しました。特にスムーズな発音と前を見て喋ることに気がつけました。質疑応答はやはり聞き取りにくかったですが、回数を繰り返すと意味が分かるようになりました。どういう実験をすれば良いのかの意見をくださり非常に参考になりました。



発表に臨む修士一年の太田朝貴君と次発表者席の花田翔君。両名とも懸命な発表の甲斐もあり、Buchner氏から重要な指摘をいただいたようでありました。また、世界的な研究者の前での発表で緊張したようでしたが、収穫も多かったと話してくれました。